

令和6年度 第3回栗東市市民参画等推進委員会

●令和6年11月26日（火）14:00～15:30

●場所 栗東市役所 危機管理センター3階 大研修室

●出席者 新川委員長、高野副委員長、石橋委員、池田委員、宮川委員、幡委員、中村委員、西川委員

市民部：西村市民部長

市民部自治振興課：濱田課長、松田係長、杉山主事補

(株)しがぎん経済文化センター：田中部長、北村課長

●欠席者 村田委員、太田委員、平岡委員

議事記録（概要）

1. 開会 進行：自治振興課長

2. あいさつ

（委員長）

本日、第3回になるが、市民参画等推進委員会にお集まりいただき感謝申し上げます。前回もいろいろと議論いただいたが、いよいよ次年度からの新しい行動計画の策定が山場になってきた。本日もしっかりと議論をしていただければと思う。また、このところ少し栗東市の市民活動や地域のいろいろな活動が多少停滞気味かと思う。どのようにこれから活性化していけばいいのか、市民の皆さんの活動をさらに活発にしていける、そんな観点でも、本日いろいろな報告もあるので、あわせて議論をいただければと思う。本日も市民参画等推進委員会で皆様と一緒に良い議論ができればと思う。

（市民部長）

本日は何かとご多用中、第3回目となる推進委員会に出席いただき感謝申し上げます。日頃は、本市の市民参画と協働によるまちづくりを推進するにあたり、格段のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、行動計画の策定もいよいよ大詰めに差し掛かってきた。先日、私どもの市で開催された行政改革懇談会において、市民のアンケート結果をKPIに設定するのはいかがなものかという意見をいただいた。本行動計画においても、一本筋の通った成果指標が設定できればと考えている。市民参画と協働のまちづくりらしい、未来に向けた元気で明るい行動計画になればと願うところである。委員の皆様には大変お世話になるが、どうぞよろしくお願いする。

3. 栗東市市民参画等推進委員会の公開について

4. 報告事項

○令和7年度実施予定団体

公開プレゼンテーション・公開ヒアリング審査結果について

・ ・ <資料1－1>

<資料1－2>

(委員長)

ただいま「元気創造まちづくり事業」「未来へつなぐ市民活動応援事業」の審査結果報告をいただき、それぞれ1団体ずつが、審査の結果、採択され次年度から事業を行っていただくという報告であった。各委員から質問や意見があればお願いしたい。また、審査に関わっていただいた方々、コメントあればお願いする。

(副委員長)

「栗太郡衛岡遺跡」へ不採択の報告をされたときの団体の反応や意見などがあれば、教えてほしい。

(事務局)

郵送で不採択の結果を送らせていただいたが、その後、代表からお電話をいただき、いろいろサポートしていただきありがとうございますということだった。残念そうな感じだったが、一応お礼のお言葉をいただいた。ただ、予定している説明会などは開催されると思うので、採択されなかったから団体を解散するとか、そういった感じではないと思う。

(副委員長)

わかりました。

(委員)

私が、聞いた話では代表は若い人に代わるというような意向だった。

(委員長)

これに関連してでも結構だが他にはどうか。数がずいぶん寂しくなってきたので考え直さないといけないようになってきた。また、後ほど議論いただければと思う。それでは「元気創造まちづくり事業」「未来へつなぐ市民活動応援事業」の採択団体の報告については以上とさせていただきます。

5. 協議事項

○栗東市市民参画と協働によるまちづくり推進条例行動計画（素案）について

・ ・ <資料 2－1>

<資料 2－2>

（委員長）

ただいま行動計画素案の説明があった。特に前回から大きく修正された点について説明された。素案の内容について各委員から意見をいただければと思う。

（委員）

素案をもらい、プリントアウトして一生懸命全部目を通したが、全然、頭に入ってこない。本当に文章がおかしいとかを思う前に、「もうちょっと無理」と思ってしまった。申し訳ないが、私は仕事として協働とか NPO などずっと関わっているにもかかわらず、全然頭に入らなかった。一つ私が関わっている部分で気になったことがあり、21 ページの「コーディネーターの役割を担える職員の配置や育成」のところで「元気創造まちづくり事業サポート講座の実施」とあるが、これは今は職員には全く関係のないところでやっているのではないかと思うが、どうなのか。

（事務局）

今年度はサポート講座に関しては、1 団体だけであったが、昨年度なら、例えばコミュニティセンターの職員も参加していたと思う。そういった形でコミュニティセンターや、それらの職員なども一緒にサポート講座に参加させていただいて、中間支援を担えるような職員の育成をしていくという意味で記載させてもらった。

（委員）

今の位置づけでは住民団体の方がメインだったが、これからは協働に関係する職員も受講するような方法に変わるということか。

（事務局）

そうである。市民団体の方だけではなくて職員も一緒に講座に参加して、一緒に学んでいくという形を取ればと考えている。

（副委員長）

素案は本日配布されたものが最新か。

(事務局)

前に渡したものから一部修正した部分もあるので、本日紙で渡したものが最新のものとなっている。ご意見シートの資料2-1-2の修正部分はまだ対応できていない状態となっており、本日委員からいただいた意見と合わせて修正して、また後日再配布させていただく。

(委員)

この修正シートで、18ページの環境づくりの『中間支援組織の育成・支援及び組織体制の充実』のところで、「NPO法人化への自立や法的課題の対応等における専門的相談支援の検討」として「中間支援組織を検討していきたい」とずっと何年も言ってきたができずに、今回はこの項目を削除するということで本当のことが書かれた感じがする。そこは評価するが結局諦めるという感じで、少し残念である。

(委員)

おそらく、この計画を過去に見直した時に、「法人化への自立や法的課題の対策等における専門的相談支援の検討」が記載されていた。その計画策定時では、栗東市で中間支援的な役割を果たすのはボランティアセンターとコミュニティセンターという位置づけではなく、「そういう中間支援的な組織があるといいね」という段階で記載していたから、この文言だったのかという記憶がある。ただボランティアセンターとかコミュニティセンターが中間支援の役割を担うとなったときは、やはりなかなかそこまでの支援が難しいのが現実だと理解をしているが、そのような理解でよいのか。

(事務局)

元々がボランティアセンターに関しては社会福祉の色の濃い組織、コミュニティセンターに関しては地域に根ざした組織ということで、市民団体をつなぐ本来の役目ではなく、中間支援組織として活用できる位置づけということで定義をさせていただいた。

(委員)

そうなると、法人化や専門的なことを相談する時どうしたらいいのかということがある。この計画の中には書けないが、ボランティアセンターの職員の方だとか、コミュニティセンターの職員の方がなかなか相談に対応できないものは、例えば滋賀県や近隣のところを紹介するなど、そういう情報は持っておいた方がよいと思う。

(委員)

9ページに書かれている基本目標でもう一つ増えて「市政への参画」が入った。これはものすごくよいことだと思うが、でもこれが入ったことは、この上に書かれてある他の基本目標が充実していないとできないことなので、上の基本目標をもっと充実して、ちゃんとして

ほしいと思う。一方、実績は積んできているので、そこからどう進めていくのかをもう少し具体的にしていってほしいと思う。そうすれば市政の参画につながると思う。なかなか市政の方までは一般市民は見ない。したがって基本目標の上の4項目をしっかりと、もう少し具体的にしていってほしい。

(委員)

8ページの「4. 栗東市の現状」だが、ここでは人口動向だけがあり、その人口動向に至る記述が書かれているが、それを見ても人口動向だけで、栗東市の現状という言葉がピンとくるのか疑問に感じる。下にイラストが挿入される予定であるが、この余白はもったいないと思う。もう少し人口動向を述べているところを補填される何かグラフみたいなもの、あるいは表せるようなデータがあればとよいと思う。

(委員長)

事務局で何かアイデアがあれば、ぜひお願いしたい。

(事務局)

あくまで一案であるが、人口が増えてきているが年齢層に時代の変化があるということを示した図があればよいと思う。

(委員)

今の人口動向の文章を補填するような感じで、年齢層の動態を表すようなグラフ的なものがあれば、より分かりやすい。要するに人口は単純なもので、数字だけが出てくるだけである。それよりも栗東市の現状は実際に若い方々も増えてきていると聞いているので、若い人がどれぐらいのパーセンテージなのか、またやはり高齢化になっており、高齢者がどの程度のパーセンテージなのか分かりやすい方が、この文章に合った感じのデータとして出すのにはよいと思う。工夫をお願いできたらと思う。

(事務局)

図表は探します。

(委員長)

人口の増減だけではなく、年齢階層別の推移や高齢化、生産年齢人口の減少であるとか、このあたりを示すと人口の変化というのも立体的に見えてくる。工夫をお願いする。

(副委員長)

今回の計画が第3版で、当初の策定から10年くらい経っている。第1版を策定して、第

1 版に対する反省や課題があったと思う。今は第 2 版の計画をもとに、第 3 版の策定を行っている。そういう中で、最初の頃は当然普及や啓発、市民意識の醸成、協働がどのようなものなのか説明があったと思う。今回、そのような内容は無いが、もう一度、協働のまちづくりの必要性を確認するために、記載が必要かと思う。それは、今回の成果目標につながり、まちづくりの事業につながると思う。まず、市民の意識が変わらないことには、結果が出てこないと思う。10 年前と社会が変わってきているので、原点を確認したうえでやったらどうか。それについてはどう考えておられるか。

(事務局)

「協働って何？」というのを冒頭に簡単に説明するという意味でよかったか。

(副委員長)

6 ページにも趣旨が記載されているが、この文章では伝わりにくい。例えば図式で示すとか。これは行政や私達だけの計画ではないと思う。市民の方がこれを見てどんなふうに理解してくれるか、これは市民にとっての行動計画だと思ってもらえるようなインパクトというか、まず知ってもらわないことには、行動はできないのではないか。何かそういう部分があればと思う。

(事務局)

行動計画というものを今回初めて見る人が興味を引くようなものか。

(副委員長)

そういう意味もある。これは何も行政だけのものではなく、市民の行動計画だという視点で捉えられるような計画であってほしい。

(事務局)

3 ページにまちづくりの考え方や、基本的なものは掲載しているが、やはり文字ばかりでもあるので、順序や示し方、例えばそのイラストや図で示すといったことも含め、冒頭部分を工夫してみる。

(副委員長)

25 ページで、「協働によるまちづくりが進められていると思う市民の割合」、他の参考指標も「思う」という言葉が使われているが、本来はもう少し厳しく「進めている」とすべきである。「進めている市民の割合」、「私は進めている」という市民の割合とすべきである。「思う」ことも大事だが目標としては、もっと具体的な視点が必要かと思う。

(委員長)

事務局いかがか。アンケートの項目がこうになっているということか。

(事務局)

その通りである。

(事務局)

これは総合計画のアンケートを併用しているので、そちらの方を引用している。

(副委員長)

参考指標とあるので、次のアンケートもこうになるのか。

(事務局)

その部分について全く趣旨を変えてしまうと経年比較が難しい。確かにご指摘の通り「思う」となると、物差しが分からないというのはもっともである。仮に「思う」のアンケートを取るとなれば、次の予定では令和8年度に中間評価のアンケートを取るので、その時点から毎回令和8年度を基準年として同じ内容を毎回聞くスタンスで測っていくことになる。したがって「思う」という市民の割合と、実際に自分自身が「やっている」という、二つの質問項目が出てくることになる。一つは総合計画で、一つは当方で独自アンケートを取るという形式になると思う。それでもということであれば用意させていただく。

(副委員長)

独自アンケートでも機会があればやった方がより具体的に進んでいるという実態が分かりやすいと思う。アンケートを工夫して欲しい。

(事務局)

アンケートはいくつ質問してもよいと思うので、その中からこの一つを、一つの資料という形でさせていただくことになるので、アンケートを取る際にはそのあたりも踏まえて検討させていただきたいと思う。

(委員)

7ページの「⑥委託・指定管理」の具体例は、両方とも指定管理か。

(事務局)

「さきら」「こんぜの里バンガロー村」とともに指定管理である。

(委員)

せっかく「委託」が入っているので、地域や事業者の特性を活かして、本格的に行われている事業があれば、ここに一つ入れてもよいかと思う。他の具体例は全部二つだが、二つに限らず、「この事業は委託事業なのか」と市民が分かるような事業を一つ入れてはどうか。

(事務局)

委託に該当するものを加える。

(委員)

3ページの「(1) 目的」の下の方の記載、下から2行目のあたりの文章について、「豊かで活力に満ちた、だれもが」の「だれもが」の文言は、9ページの基本目標の環境づくりの1行目の「ネットワークが構築され、だれもがまちづくりに参加できる」の「だれもが」と文言としては同じだが、意味としては違うと思う。3ページの「だれもが」は市民全員が対象だと思う。9ページの「だれもが」は環境づくりの事業とか、何かしら参加意欲のある人が対象になると思う。したがって、9ページの「だれもが」はそういうまちづくり事業に参画する意欲のある人という形の方が私はしっくりくると思う。

(事務局)

意味がややこしくなっているので指摘の部分9ページの「だれもが」は消し、後段は「まちづくりに参画しやすい環境が整っている」という方が目標としては適切かと思う。

(委員)

文章が多すぎると見づらい。やはり写真のあるところは見やすいので、写真などを増やしたらよいと思う。写真とかがあると頭に入りやすい。

(事務局)

おっしゃる通り、写真、イラスト、図式をもう少し増やしたい。

(委員)

写真を増やすなら、先ほど西川委員が意見された委託事業の写真とか実際に栗東でされている写真をちりばめられるとよいと思う。「ああ、あれもか」みたいに分かりやすくしてほしい。

(事務局)

6ページ、7ページの具体例など写真が差し込める箇所は、見やすいように再考する。

(委員長)

6 ページ、7 ページのところでせっかく具体例を入れていただいたが「④委員会」を除くと協働が多くなっており、参画があまり無い。パブリックコメントなどやっておられると思うので参画も入れてほしい。「市長への手紙」や「市民懇談会」などいろんな機会があり、広報でも意見を募集している。そういうのもちゃんと入れておくと分かりやすいと思う。

(事務局)

そのあたりもぜひ掲載させていただく。

(委員)

「パブリックコメントってここにあるんですよ」「栗東市のホームページのここ」のようなものもあるとよいと思う。

(事務局)

例えば「こんな検索ワードでヒットしてページにたどり着きますよ」のような感じか。それはできると思う。

(委員)

この 10 ページの、「きらり☆栗東」の写真が入っただけでも、前の計画書とはまったく違うと思う。「きらり☆栗東」でイルミネーションをやっていたんだと思った。こういう写真があると、よく分かると思う。

(事務局)

この写真は一昨日の日曜日に栗東駅でイルミネーションの点灯式があり、そのときの写真を掲載させていただいている。

(委員)

写真のスペースが許せば、いつの年度かを入れた方がよいと思う。

(事務局)

それはさせていただく。

(委員)

ご意見シートの事務局修正案の P18 の環境づくりで、四角で囲った下のところに「ボランティア市民活動センターやコミュニティセンターなどの行政主導型組織について中間支

援組織として機能強化を図ります」を、このように修正しましたと下を書いてあるところに「行政主導型組織」が抜けている。抜けているのなら、ここで対比になっている本文の2行目にある「市民主導型組織」という言葉がすごく浮いた言葉に見えてしまうので、「何かの組織」という硬い言葉を使わなくて表現できるようにしたらよいと思う。要するに本文を修正するには、行政主導型組織という言葉に対比させて市民主導型組織を使っていると思うので、行政主導型組織という言葉を使わないなら、市民主導型組織という言葉が非常に浮いてきてしまうと思う。

(事務局)

本文も足並みを揃えます

(委員)

担い手づくりの栗東 100 歳大学のところで「コロナ禍で、栗東 100 歳大学の代わりに Zoom 講座」を実施したとあるが、これはコロナの時だけだったと思うのでおかしい。

(事務局)

コロナ禍でも形を変えて Zoom で実施した。別室で先生がレクチャーを行ったり、席を空けた状態にするなど密を避ける状態で実施した。

(委員)

「Zoom 講座を実施しました」と記載している。

(事務局)

「非対面でコミュニケーションが取れる方法についてご紹介する」のテーマで行った。

(事務局)

今のこの内容だけだと Zoom 講座だけを行ったと捉えられてしまう。もう少しニュアンスを変える。

(事務局)

ここの部分だが、おっしゃる通り写真の内容と文字の内容は一致していない。これに関しではこの後に行う各課照会で、担当課で「写真の内容＝文字」のような文章になるように修正・対応をあらかじめ依頼している。

(事務局)

先ほど幡委員の方からパブリックコメントの件で、ホームページの内容について話をいた

だいたいが、ホームページの中段あたりにパブリックコメントのバナーがあるので、バナーを押すと現在募集中のパブリックコメントが一覧で表示され、現在行っているパブリックコメントの情報提供をさせていただける状態になる。現在はパブリックコメントの募集は無いが、おそらく来月から始まると思うので、確認いただけたらと思う。

(委員)

担い手づくりについてであるが、先日栗東 100 歳大学で栗東市ボランティア観光ガイド協会の会長が、少しだけ協会の紹介をした後、コミュニティセンター治田西の近くにある菌神社などを実地で歩き私が説明した。栗東 100 歳大学の学生は今 20 数名いるが、その中の 1 人が早速ガイド協会に入会された実績があるということを報告しておく。

(委員長)

着々と実績が上がっている。そのようなことも表現でうまく活かせるとよい。

(委員)

13 ページの下段の黒塗りのところに「プラットフォーム」という言葉が出てくるが、分かるようで分からないと思うので、解説のところに余裕があるので、そこに説明を入れていただきたいと思う。プラットフォームという単語の解釈もいろいろあると思うので、市民が読まれた場合の立場でお願いします。

(委員長)

37 ページの用語説明に少し工夫して入れられるようであれば考えてほしい。

(事務局)

用語解説への追加で対応します。

(委員)

用語解説に関連することだが、読んでいて、これ何だろうと思ったときに後ろに解説があるか無いか、その箇所を読んでいる時に分かる印が、有ればいいと思う。

(事務局)

脚注があればということか。

(委員)

何か本文中に印があり、それは後ろに用語解説あると分かるとういと思う。

(委員長)

他の計画書でもよくあるような星印が付いていて、そこは最後に解説がありますというふうに下の方に書いてあったり、小さい文字で書いてあったり、そのような形式でよいかもしれない。

(委員)

「※」印を入れて、それを見れば後ろに解説があるという誘導の仕方が分かりやすいと思う。その旨を最初のページに記載しておき、解説をご覧くださいとしておけば分かりやすいと思う。

(委員長)

参考にしていただければと思う。

(委員)

29 ページに推進委員会の委員名簿があるが、できれば委員長、副委員長を1 番目、2 番目に記載し、その後に委員を入れる形にしていただければと思う。誰が委員長、副委員長を務めているかが分かる方がよいと思う。

(事務局)

こちら表の並び順は、条例の要綱に書かれたものになる。本計画書では35 ページの第4 章 第15 条の2 の記載順となっている。

(委員)

それに基づいた記載順は分かるが、一般市民は、この委員会の委員長はどなたで、副委員長はどなたで、委員の方々はどなたかを分かった方がよいと思う。

(事務局)

別途、委員長、副委員長という表示を加えた方がよいということか。

(委員)

ご検討いただければと思う。

(委員)

補足資料で「附属機関等委員構成」があるが、これはどういう意味か。

(事務局)

この後に説明する。

(委員長)

それでは行動計画の素案には一通りの意見はいただいたかと思う。まだ、いろいろと考えていること、今日はっきり申し上げられなかったこともあると思うが、それは恐縮だができるだけ早い段階で事務局にお伝えいただき、可能なところは今日の修正点と合わせて検討され、庁内での最終検討に入っていただくようなタイムテーブルで進めていただければと思う。各委員、そのような進め方でよろしいだろうか。今月いっぱいぐらいが限度かもしれないが多少でも意見があれば、事務局で修正をいただき、庁内でご検討いただいて、パブリックコメント案の調整をしていただければと思う。その段階で各委員にはご連絡いただき、最後の委員会に向けて考えていきたいと思っている。後ほどスケジュールの話もあるが、パブリックコメントの意見を踏まえて来年2月ぐらいに第4回委員会が開催されるので、そこで最後に意見をいただいて、行動計画の答申ができるところまで進んでいければと思う。事務局そういう手順でいかがか。

(事務局)

その手順で進める。

(委員長)

よろしくお願いします。

(委員)

30ページの「(4) 市民団体へのヒアリング結果」について、2つの団体に各2名ずつアンケートに回答されて4分の0とか、4分の2などの結果になっているのか。

(事務局)

団体に関しては、記載の通り9月25日には「栗太郡衙岡遺跡と周辺保存会」の1団体で、10月19日には「なごやかサークル」「おやじ塾」「キャロット」で合計4団体ヒアリングを行った。

(委員長)

それでは行動計画の審議は以上にして、その他の報告がある。事務局、説明をお願いします。

6. その他

○市民団体支援制度の見直しについて

(行動計画の策定により今年中の提案が難しい旨を説明)

○令和5年度附属機関等委員構成について・・・＜補足資料1＞

○行動計画策定スケジュールについて・・・＜補足資料2＞

(委員長)

その他で3点説明があった。一つは「市民団体支援制度の見直し」で、残念ながら今年度は難しいと説明があった。二つ目は「附属機関等委員構成」で市民の方々が中心か、職員の方が中心かということで、構成などを説明いただいた。それから本委員会で審議をいただいた行動計画を本年度末までに仕上げるということで、来年3月までのスケジュールを説明いただいた。これらについて各委員から質問や意見があれば、よろしくお願いします。

(委員長)

一つだけ私の方から。市民団体支援制度の見直しが今年度は難しいとのことで、行動計画を策定しており大変だと思うが、もう一方ではあまり先延ばしするのもよくない。できれば令和8年度の募集に際して多少なりとも検討ができるよう、令和8年度の採択団体に向けて何がしかできるような、スケジュールをぜひご検討いただければと思う。そのためには次年度早々から改めて検討いただくということになるが、その前でもこの行動計画の内容が固まった段階で、早速次年度に向けての検討を始めていただくことをぜひ事務局には願います。そうすると、中々全面改正は難しいかもしれないが、令和8年度の募集で少しでも改善ができるものは、今から改善をしていくとできるかもしれない。このあたり少しスピードアップをお願いできればと、これはお願いではあるが要望を申し上げたい。よろしくお願いします。

その他特に無いなら、本日の予定は全て終了した。特に行動計画には、意見もいただいた。いよいよ最終段階になってきたので委員の皆様から追加の意見などをいただいて、良いものに仕上げていっていただければと思っている。事務局はここからが大変だがよろしくお願いしますと思う。それでは私の進行については以上にしたいと思うが、各委員何か言い残したことなど、よろしいか。それでは、進行にご協力いただき感謝申し上げます。

(事務局)

支援制度については先ほど委員長からの意見の通りに、なるべく令和8年度から対応できるよう逆算して進行管理していく必要があるので、皆様方の貴重な意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは閉会にあたり高野副委員長から一言ご挨拶をよろしくお願いします。

(副委員長)

それでは皆さん長時間大変にご苦勞様でした。貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。私は自治会長の団体の代表で参加しており、今、自治会会員の減少、入りたくないなどの意見があり、この計画には加入の促進と記載してあり非常に気になる。今、本当に地域コミュニティなど、いろいろな部分で人間関係が希薄になっている中で、この協働のまちづくりをどのようにしていったらよいのかという思いをしながら参加させてもらっている。やはり協働のまちづくりをしようと思うと、まちづくりは人づくりであり、その人がどういう意識や価値観、生き方を持てるかが大事なので、私は生涯学習とか社会教育との連携や交流があってもよいという思いをしながら、参加させてもらっている。大変広範囲で総合的な取り組みになっていると思う。皆さんもいろいろご苦勞をされていると思うが、今後この行動計画が策定され、そして市民の皆さんが「本当に栗東に住んでよかった」と思い、またともに一緒に社会貢献することを生きがいとして、生きていただけるような市民の人が1人でも多く増えればよいと思う。今後とも皆さんのご協力をお願いして終わりの挨拶とする。

(事務局)

ありがとうございました。それではこれをもちまして、令和6年度第3回栗東市市民参画等推進委員会を終了とさせていただきます。

以上